

消費税申告書の集計方法

TOP

合計残高試算表の「仮受消費税」と消費税申告書の「消費税」は、根本的な違いがあるため一致しないものになります。

合計残高試算表の消費税額

会計上の計算にもとづき集計されます。
登録された伝票について、科目ごとに金額を足していきます。

伝票から自動計算された
仮受消費税の合計金額

会計残高試算表						
集計期間 自 〇〇〇年 期首振戻 1日 至 〇〇〇年 期末整理 31日						
税処理 税抜 (単位: 円)						
貸借対照表 損益計算書 製造原価報告書						
コード	科目名	繰越残高	借方	貸方	残高	構成比
A3000	繰越資産計	0	0	0	0	0.0
A1000	資産合計	515,440,500	3,984,534,288	2,643,625,720	1,856,357,068	100.0
305	費掛金	35,700,000	178,791,650	242,772,600	98,680,950	5.3
330	仮受消費税	0	676	94,443,002	94,442,326	5.1
331	未払消費税	5,800,000	0	0	5,800,000	0.3
336	未払賞金給与	24,500,000	0	0	24,500,000	1.3
340	前受金	14,800,000	0	0	14,800,000	0.8
345	預り金	3,488,100	0	0	64,412,149	3.5
L1100	流動負債計	84,288,100	0	0	302,635,425	16.3

会計上の計算は、伝票から
自動計算された「仮受消費
税」勘定の合計額

消費税申告書の消費税額

消費税法の計算にもとづき、集計されます。
登録された伝票について、税区分ごとに足していき、そこから「課税標準額」等を求めます。
具体的には、税区分で集計したものから本体価格を求めます。その結果の1,000円未満を切り捨てし、「課税標準額」を求めます。課税標準額の7.8% (国税分) が消費税申告書の消費税額となります。

$$\text{税区分 (一般売上)} \times \frac{100}{110}$$

例: 売上に関する税区分

この申告書による消費税の税額の計算		
課税標準額	1	1,000,000
消費税額	2	78,000
控除過大調整税額	3	0
控 除 対象仕入税額	4	0
控 除 返還等対価に係る税額	5	0
税 控 除 税額に係る税額	6	0
税 控 除 税額小計 (4+5+6)	7	0
控除不足還付税額 (7-2-3)	8	0

消費税法上の計算は、
税区分で集計し、100/110 で
課税標準額を求めます。
その結果の 7.8%が消費税額
になります。

注 意

軽減税率 (8%) や経過措置 (8%) の伝票がある場合は、それぞれで計算され合算されます。

参 考

消費税率ごとの国税と地方消費税の税率は以下のとおりです。

消費税率	国税	地方消費税
10%	7.8 %	2.2 %
8% (軽)	6.24%	1.76%
8%	6.3 %	1.7 %
5%	4 %	1 %
3%	3 %	—

○具体例

《合計残高試算表》

売上高 : 500,888

仮受消費税 : 50,088

《消費税申告書》

課税標準額 : $(500,888 + 50,088) \times 100/110 = 500,887$ ←1,000未満切り捨て
⇒500,000

消費税額 : $500,000 \times 7.8/100 = 39,000$

参 考

消費税申告書の集計結果を追跡するには、画面上の金額をダブルクリックすることで、消費税計算書の画面にジャンプし、内訳の内容を確認できます。